

国体明徴  
に  
関する  
声明  
経過

特殊資料  
第三類  
憲法関係

国立公文書館

分類

配架  
番号

2 A

40

⑥

67

國体明徴に關する声明経過

目次

一、第一次声明(昭和十年八月三日)経過

二、第二次声明(昭和十年八月十五日)経過

特殊資料

第一類 憲法関係

第二類 國体明徴に關する声明経過

内  
閣

園休明徴と関する声明経過

目次

一、第一次声明(昭和十年八月三日)経過

二、第二次声明(昭和十年十月十五日)経過

ヲ發揚セントスルヲ期ス、乃チ茲ニ意ニ在ル所ヲ  
述ベテ、各々國ノ御力ヲ希望ス。

十月一日  
午後七時  
改訂

略 確 定 せ る  
因 添 筆

恭ニク惟ミルニ、我が國體ハ、天孫降臨ノ際下  
ニ賜ヘル 御神勅ニ依リ昭示セラルル所ニシテ、  
萬世一系ノ 天皇國ヲ統治シ給ヒ、寶祚ノ  
隆ハ天地ト與ニ匹敵ナシ。サレバ憲法發布ノ 御  
上諭ニ「國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承テ

テ之ヲ子孫ニ傳ス所ナリト宣ヒ、憲法第一條ニハ

「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇ニ之ヲ統治ス」と明示シ

給フ。即チ大日本帝國統治ノ大權ハ儼トシテ天

皇ニ存スルヲ明テリ。若シ夫レ統治權ガ 天皇ニ

存スガシテ 天皇ハ之ヲ行使スル爲メ機關ナリト爲

スガ如キハ、是レ全ク萬邦無比ナル我が國體ノ本  
義ヲ愆ルモノナリ。

近時國體ノ本義ニ關聯シ憲法學說ヲ繞

リテ論議ヲ見ルニ至レルハ寔ニ遺憾ニ堪ヘズ。

政府ハ愈々國體ノ明徴ニ力ヲ致シ其ノ精華

ヲ發揚セシメテ期ス。乃チ茲ニ意ノ在ル所ヲ  
述ベテ廣ク各方面ノ協力ヲ希望ス。

十一年八月三日  
午後七時半  
發行

陸軍大臣  
海軍大臣  
逓信大臣  
文部大臣  
農林大臣  
内務大臣  
正三位

恭シク惟ミルニ、我が國體ハ 天孫降臨ノ際下

レ賜ヘル 御神勅ニ依リ昭示セラル所ニシテ、

萬世一系ノ 天皇國ヲ統治シ給ヒ、寶祚ノ

隆ハ天地ト與ニ共射ナレ。サレハ憲法存存ノ 御

詔ニ、國家統治ノ大權ハ朕力之ヲ祖宗ニ承ケ

其ノ精華ヲ發揚セシメトテ期ス。乃チ茲ニ意ノ  
 在所ヲ述ベテ廣ク各方面ノ協力ヲ希望ス。

昭和十年八月三日  
 岡田 謙三

政 務 長 官

外 務 省

大 臣 官 房

庶 務 課



恭シク惟ミルニ我が國體、天孫降臨、際

下シ賜ル 御神勅ニ依リ昭示セラル所ニシテ、

萬世一系、天皇國ヲ統治シ給ヒ、寶祚

内閣

隆ハ天地ト與ニ窮ナシ。カレ憲法發布  
御上諭ニ「國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖  
宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳ル所ナリト宣ヒ憲  
法第壹條ニ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇  
之ヲ統治スト明示シ給フ。即ケ大日本帝國

(天孫降)

統治ノ大權ハ儼トシテ 天皇ニ存スルモト明ナリ。  
若シ夫レ統治權ガ 天皇ニ存セバシテ 天皇  
ハ之ヲ行使スル爲ノ機關ナリト爲スガ如キハ、是  
レ今ケ萬邦無比ナル我が國體ノ本義ヲ愆  
ルモナリ。



近時憲法學說ヲ繞リ國體ノ本義ニ關聯シテ  
 免角ノ論議ヲ見ルニ至ルハ是ニ遺憾ニ堪ヘズ。  
 政府ハ愈國體ノ明微ニカラテ效シ其ノ精華ヲ  
 發揚センコトヲ期ス。乃チ茲ニ意ノ在ル所ヲ述ベテ  
 廣ク各方面ノ協カヲ希望ス。

(永田義典)

新皇公  
 恭シク惟ミルニ我ガ國體ハ天孫降臨ノ際  
 下シ賜ヘル御神勅ニ依リ昭示セララル所ニシテ、  
 萬世一系ノ天皇國ヲ統治シ給ヒ、寶祚ノ  
 隆ハ天地ト與ニ窮ナシ。サレバ憲法發布ノ御上  
 諭ニ「國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承  
 け在法ヲケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリト宣ヒ、憲法第  
 一條ニハ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治  
 スト明示シ給フ。即チ大日本帝國統治ノ大權ハ  
 儼トシテ天皇ニ存スルコト明ナリ。若シ夫レ統治  
 權ガ天皇ニ存セズシテ天皇ハ之ヲ行使スル爲ノ

機關ナリト爲スガ如キハ、是レ全ク萬邦無比ナル我  
ガ國體ノ本義ヲ愆ルモノナリ。

近時憲法學說ヲ繞リ國體ノ本義ニ關聯シテ  
鬼角ノ論議ヲ見ルニ至レルハ寔ニ遺憾ニ堪ヘズ。  
政府ハ愈々國體ノ明徴ニ力ヲ效シ其ノ精華ヲ  
發揚センコトヲ期ス。乃々茲ニ意ノ在ル所ヲ述ベ  
テ廣ク各方面ノ協カヲ希望ス。

年月日  
陸軍省  
大正十一年

恭シク惟ミルニ我ガ國體ハ天孫降臨ノ際  
下シ賜ヘル御神勅ニ依リ昭示セラルル所ニシテ、  
萬世一系ノ天皇國ヲ統治シ給ヒ、寶祚ノ  
隆ハ天地ト與ニ窮ナシ。サレバ憲法發布ノ御上  
諭ニ「國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承  
ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリト宣ヒ、憲法第  
一條ニ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治  
スト明示シ給フ。即チ大日本帝國統治ノ大權ハ  
儼トシテ天皇ニ存スルコト明ナリ。若シ夫レ統治  
權ガ天皇ニ存セズシテ天皇ハ之ヲ行使スル爲ノ

為ニ全幅ノ力ヲ效ニ来ツタノ下ルカ  
今後念々各方  
向ノ協力ニ依リ其ノ完備ヲ期シタリ

10.10.11

灌田教育地誌

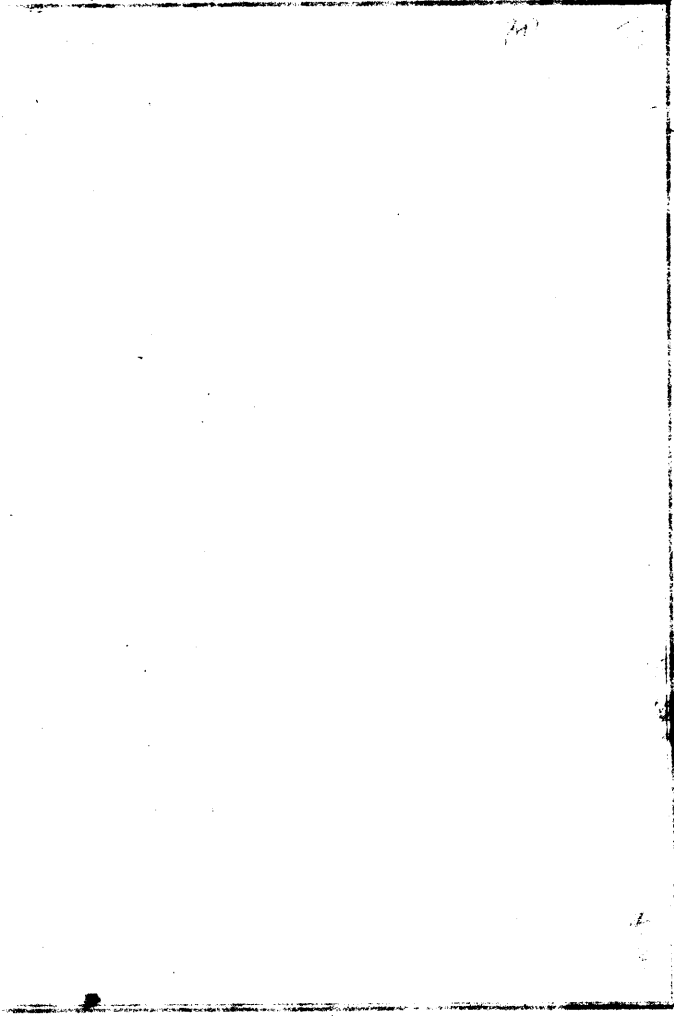
子ノ使書ニ  
成層再言明漢書  
等ヨリ引ク  
トテ  
大正十三年  
物長生

諸論一覽

之レヲ要スルニ物曰ニ能ケル可也、其レ、行政ニ  
勿論、同、277 完ニ至ルニ、萬般ノ千象ニ  
悉ク万却無比ナル此口体ノ高層ヲ維持擁護  
凡外ニ出ルヲ許サズ故ニ特事尙ニ苛速ノ主  
旨ニ及ルル者即ニ詔旨トシテ批辭セシメトフ期ス

内閣

内閣



○十月十日  
國體ノ法文書

一、皇室ノ地位  
一、皇室ノ地位  
一、皇室ノ地位

政府ハ義ニ國體ノ本義ニ關シ所當ヲ披露シ以テ國民ノ實ヲ所ヲ明ニシ意  
意國體ノ精華ヲ發揚センコトヲ期シタリ  
抑々天皇ハ統治權ノ主體ニマシマスコトハ帝國國民ノ絕對ノ信念ニシテ  
皇權由リ肇メ列祖繼承ケテ之ヲ統治シ給フ故國體ノ本義ニ關シ殆々手ト  
シテ明カナリ此ノ信念ト稱答レサル決州祝ハ國體ノ本義ヲ違ルモノニシ  
テ之ヲ排除スベキモノトス俟トルニ其方國ニ於ケル政治、經濟、學術等  
万般ノ學識ヲ其方異邦無比ナル國體ノ本義ニ準足スベキコト勿論ナルヲ  
以テ政府ハ右ノ精神ニ基キ以テ國體ノ信念ヲ貫徹ナラシムル爲金權ノ力ヲ  
效スト共ニ此ノ主旨ニ反スル諸端ハ今後嚴手取締ランコトヲ期ス

○十月十日  
國體ノ法文書

内閣

午後四時  
午後五時  
午後六時  
午後七時  
午後八時  
午後九時  
午後十時  
午後十一時  
午後十二時

政府ハ義ニ國體ノ本義ニ關シ所當ヲ披瀝シ以テ國民ノ贊フ所ヲ明ニシタ  
ルガ。天皇ガ統治權ノ主體ニマシマスコトハ我ガ國體ノ本義ニシテ吾國  
臣民ノ絕對ノ信念ナリ。之ト相答レザル機關設ノ排除スベキモノタルハ勿  
論、政治、經濟、學術其ノ他百教ノ事無テ比ノ萬邦無比ナル國體ノ本義ヲ  
基トシテ~~政府ハ右ノ精神ニ基キ國體觀念ヲ愈々明瞭ナラシム~~  
ル爲全權ノ力ヲ收サンコトヲ期ス

1910.11

午後四時頃より六時  
迄

協長室にて

協長 吉田首相

陸海軍大臣

協長ノ佐藤

協長室にて

協長室にて

協長室にて

協長室にて

協長室にて

協長室にて

協長室にて

協長室にて

協長室にて

政府ハ日露・國體ノ本義ニ関シ所信ヲ披瀝シ以テ

國民ノ嚮フ所ヲ明シタリ。天皇ガ統治權ノ主體

ニマシマスコトハ我國體ノ本義ニシテ帝國臣民ノ絕對

不動ノ信念ナリ。然レニ漫ク外國ノ事例學理ヲ

援イテ我が尊嚴ナル國體ニ擬スル天皇機關説ノ

如キハ之ヲ排除スベキハ勿論、政治經濟學術其ノ

濟

内

他百般ノ事項總テ此ノ萬邦無比ナル國體ノ本義  
 ヲ基トシ其ノ神髓ヲ顯揚スルヲ旨トセラルベカラス政府  
 ハ右ノ精神ニ基キ國體觀念ヲ愈々明徴ナラシムル  
 爲全幅ノ力ヲ效サンコトヲ期ス。

十月二十五日午後三時  
 陸海軍大臣  
 陸軍大臣  
 海軍大臣

軍部案

一〇一〇・一三年後ニ時受

皇義ニ政府ノ口体ノ本義ニ固シ所信ヲ披瀝シ以  
 テ国民ノ智ヲ所ヲ明シシ念其精華ヲ發揚  
 セシメトヲ期シタリ

抑々我口ニ託セル統治權ノ主体ヲ天皇ニシテ  
 ハ我口体ノ本義ニシテ帝ノ尊嚴ノ絶対不動ノ信  
 念ナリ帝ノ憲法ノ上諭茲各章ニ於テ亦之ヲ

大正十三年  
 十月二十五日

明乎セラルル如クニ護リニ外ハ一市例學親ノ權イテ  
我神聖ナル口体ニ擬シ統治權ノ主体ハ口家ニテ  
天皇ヲ以テ口家ノ機關ナリトナスカキ所謂天皇機  
關說ハ天皇ノ尊嚴ヲ冒瀆シ奉リ此口体ノ本  
義ニ背反スルモノニテ斷乎之ヲ絶滅セサルハ不  
可ニ進ニテ政治教育經濟其他百般ノ事項

總テ萬邦無比ナル此口体ノ本義ヲ基トシテ  
其基礎ヲ築場スルヲ要ス  
政府ハ右ノ信念ニ基キ茲ニ吾等ヲ急メテ  
トコヲ開明シ以テ口体觀念ヲ愈々明徹ナラ  
シメ其實績ヲ收ムル爲念願ノ力ヲ致サノ事  
ヲ期ス





一 十月十日 軍部軍務 後藤内相 送付 (橋本政重官・平文)  
一 十月十日 軍部軍務 後藤内相 送付 (橋本政重官・平文)  
一 十月十日 軍部軍務 後藤内相 送付 (橋本政重官・平文)  
一 十月十日 軍部軍務 後藤内相 送付 (橋本政重官・平文)

内  
閣

1910.12

節長 兩本 曩ニ政府ハ國體ノ本義ニ關シ所信ヲ披瀝シ以テ  
國民ノ嚮フ所ヲ明ニシ愈々其精華ヲ發揚センコト  
抑ミ我國ニ於ケル統治權ノ主體ガ 天皇ニマシマスコ  
トハ我國體ノ本義ニシテ帝國臣民ノ絕對不動ノ信念  
ナリ帝國憲法ノ上諭並條章ニ於テ亦之ヲ明示セ  
ラル 然ルニ漫リニ外國ノ事例學說ヲ援イテ我神  
聖ナル國體ニ擬シ統治權ノ主體ハ天皇ナラズシテ  
國家ナリトナスガ如キ 所謂 天皇機關說ハ我國體ノ  
不義ヲ行ルモノニシテ之ヲ排除セザルベカラス

政府ハ右ノ信念ニ基キ茲ニ重ネテ意ノアルトコロヲ  
 闡明シ以テ國體觀念ヲ愈々明徹ナラシメ其實  
 績ヲ收ムル爲全幅ノ力ヲ效サンコトヲ期ス

① 國家ハ統治權ノ主体ニシテ天皇ハ統治權ノ主体ニ非ズ

① 國家ハ統治權ノ主体ニシテ天皇ハ統治權ノ主体ニ非ズ  
ト云フカ如キ誤解  
 國家ハ統治權ノ主体ニシテ天皇ハ統治權ノ主体ニ非ズ  
ト云フカ如キ誤解

② 國家ハ統治權ノ主体ニシテ天皇ハ統治權ノ主体ニ非ズ  
ト云フカ如キ誤解  
 國家ハ統治權ノ主体ニシテ天皇ハ統治權ノ主体ニ非ズ  
ト云フカ如キ誤解

② 統治權ノ主体ハ天皇ナラズシテ國家ナリ  
ト云フカ如キ誤解

① 國家ハ統治權ノ主体ニシテ天皇ハ統治權ノ主体ニ非ズ  
ト云フカ如キ誤解

美支軍

陸軍省  
陸軍部  
陸軍大臣

云々

(2) 口体は違はぬ、主権は違ふ、天皇は統治者たる

天皇なり、惟徳は統治者、主権は天皇にありト云

ハハ以上概略ニシテ

口体は若し若し同く司位部、解致ス見ル、天皇ハ統  
治者、主権は若し若し明示セズ、統治者ヲ指授シ給フ  
以下口体上焉、是は口、主権ハ口体よりト云ハルニ  
情ニ、口体ハ統治者、主権は天皇ハ統治者、治  
治者ナラトスモ、如何ニ辨セシムルニヤラス。

治政維持法理由書

國体ハ主権ノ所在據テハ、統治權ノ總攬者カ何  
人ナルカノ問題ナリ、大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇  
ニテ統治ス(憲法) 天皇ハ統治權ノ總攬者ナリ(國體)  
此ノ如ク、或ハ日本帝國ノ口体ハ萬世一系ノ天皇ニ依リ  
統治セラルル、君主口体ニシテ統治權ハ、一ニ天皇ノ治  
ル所ナラトス。

昭和四年五月三十日大憲法判決

「我帝國ハ萬世一系ノ天皇 君臨シ統治權ヲ總攬  
シ給フ、是ヲ以テ、其ノ口体上焉、治政維持法第一條  
ニ所謂口体ハ萬世一系ノ外ナラス」

十月十日

御談

陸軍省



○昭和六年七月九日大皇帝御勅

「憲法第一條ニハ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統  
治スト規定シ帝ノ口體ノ如何ナルモノナリヤヲ明カセ  
リ即チ萬世一系ノ天皇ヲ君主トシテ奉戴スルニ  
カ物ノ口體ナリ 禮儀スレハ萬世一系ノ天皇ヲ  
君主制中口體ナリ」

憲ニ政府ハ國體ノ本義ニ關シ所信

ヲ披瀝シ以テ國民ノ嚮フ所ヲ明ニシ

愈々其精華ヲ發揚センコトヲ期シ

タリ

抑々我國ニ於ケル統治權ノ主體カ

天皇ニマシマスコトハ我國體ノ本義ニ

一國體  
ニシテ  
一本聲  
採ルニ  
首相  
ノ題  
談話

日大身位初水

大日本帝位ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統  
和口口体ノ如何ナルモノナリヤヲ明カシテ  
夫ノ天皇ヲ君主トシテ奉戴スルヲ  
ヲ 指サスレハ萬世一系ノ天皇ヲ戴ク  
ノ口体ナリ

國體ノ本義ニ関シ所信

國民ノ嚮フ所ヲ明ニシ

ヲ發揚センフトヲ期シ

ケル統治權ノ主體カ

ハットハ我國體ノ本義ニ

二 國 體 二

聲明ニ伴ヒ採ル措置

- 一、國體觀念ハ時代若クハ情勢ニ依リテ既  
ニテ異ナル旨ヲ明ニスルニト
- 一、本聲明ニ附隨シテ先般勅ヲ政府ノ  
採ルニテ處置就中人事等ニ関シ
- 一、首相談等ヲ為サレニト
- 一、問題トモ符(一)ノ學局等ヲシテ無用ノ  
談話等ヲ發表スルニテ是レヲ請フニト

徳治の七本  
一、臣民の忠誠  
二、臣民の勤勞  
三、臣民の勇敢  
四、臣民の誠實  
五、臣民の忍耐  
六、臣民の謙遜  
七、臣民の節儉

シテ帝國臣民ノ絶對不動ノ信念ナリ  
帝國憲法ノ上諭註條章ノ精神亦  
茲ニ存スルモノト拜察ス然ルニ漫リニ  
外國ノ事例學說ヲ援イテ我國體ニ  
擬シ統治權ノ主體ハ天皇ニマシマサ  
スシテ國家ナリトシ 天皇者此ノ國家

神聖ナル我國體  
其本義ヲ指スルモノニシテ  
其本義ヲ指スルモノニシテ

ノ機關ナリトナスカ如キ所謂 天皇  
機關說ハ神聖ナル我國體 其本義  
ヲ指スルモノニシテ 斷乎  
之ヲ排除セサルヘカラス政教其他  
萬般ノ事項 素由リ萬邦無比ナル我  
國體ノ本義ヲ基トシ其真髓ヲ顯



揚スルヲ要ス

政府ハ右ノ信念ニ基キ茲ニ重シテ  
意ノアルトコロヲ闡明シ以テ國體觀  
念愈々明徴ナラシメ其實績ヲ  
收ムル爲全幅ノ力ヲ效サンコトヲ期  
セス

曩ニ政府ハ國體ノ本義ニ関シ所信ヲ披瀝シ以テ

國民ノ嚮フ所ヲ明ニシ愈々其精華ヲ發揚セシコ

トヲ期シタリ

抑ミ我國ニ於ケル統治權ハ主體カ天皇ニマシマス

コトハ我國體ノ本義ニシテ帝國臣民ノ絶對不

動ノ信念ナリ帝國憲法ノ上諭並條章ノ精神

亦茲ニ存スルモノト拜察ス然ルニ漫リニ外國ノ

事例學說ヲ援イテ我國體ニ擬シ統治權ノ主

體ハ天皇ニマシマサスシテ國家ナリトシ天皇

ハ國家ノ機關ナリトナスカ如キ所謂天皇機關

説ハ神聖ナル我國體ニ戻リ其本義ヲ愆ルノ  
甚シキモノニレテ嚴ニ之ヲ芟除セサルヘカラス  
政教其他百般ノ事項總テ萬邦無比ナル我國  
體ノ本義ヲ基トシ其真髓ヲ顯揚スルヲ要ス  
政府ハ右ノ信念ニ基キ茲ニ重ネテ意ノアルトコ  
ロヲ闡明シ以テ國體觀念ヲ愈ニ明徴ナラシメ其  
實績ヲ收ムル爲全幅ノ力ヲ效サンコトヲ期ス